

〈解答〉

① 1 この技術の

2 「例」(読書をしているとき、)意識が自分に向かわず、文字だけに向かっているということ。(27字)

3 エ

4 エ

配点 ① 1、3は各2点、他は各3点 10点満点

〈解説〉

① ④段落に「高級な技術」の大事な点について筆者が説明している部分を探すと、『こ

の技術(Ⅱ高級な技術)の勘所は読書の最中に自分を限りなくゼロに近づけることにあ  
る。自分を忘れることにある。』(16～17行目)という連続した二文が見つかる。

2 傍線②の直前で28～30行目に『自然に黙読をしているときには、意識はあなたを忘れて  
いる。意識はあなたを知らない。意識は文字だけに向かっている』ということ、30、  
31行目『まるで『自分』という存在がいなくなってしまうかのように』と喩えて説明  
していることに注目する。

3 この文章を大きく2つに分ける場合、以下のように考えることができる。

・ ①～④段落：読書に集中するために高級な技術を使っている。(黙読を習得するまで  
の過程にそれが表れている)

・ ⑤段落：黙読を習得するのに時間がかかるのは文字への意識と自分への意識が隣接し  
ているためであり、読書に集中するためには意識が文字だけに向かう必要がある。

4 ⑤段落に『それは、たぶん黙読には意識が深く関係しているからにちがいない。文字  
への意識と自分への意識は、おそらく隣り合わせなのだろう』(25～27行目)とあるので  
エが正解である。アは「身の回りの雑音だけを遮断すればよい」、イは「映画やテレビ  
とあわせて音楽もかけた方がよい」、ウは「音読の練習が必要不可欠である」がそれぞ  
れ間違っている。